

- Gauthier-Lafaye, F. and Weber, F. and Ohmoto, H. (1989): Natural fission reactors of Oklo. *Econ. Geol.*, **84**, 2286-2295.
- Hidaka, H. and Masuda, A. (1988): Nuclide analyses of rare earth elements of the Oklo uranium ore samples: a new method to estimate the neutron fluence. *Earth Planet. Sci. Lett.*, **88**, 330-336.
- Hidaka, H., Konishi, T. and Masuda, A. (1991) Reconstruction of cumulative fission yield curve and geochemical behaviors of fissionogenic nuclides in the Oklo natural reactor. submitted to *Appl. Geochem.*
- Holliger, P. and Devillers, C. (1981): Contribution a l'etude de la temperature dans les reacteurs fossiles d'Oklo par la mesure du rapport isotopique du lutetium. *Earth Planet. Sci. Lett.*, **52**, 76-84.
- Loss, R. D., Rosman, K.J. R., DeLaeter, J. R., Curits D. B., Benjamin, T. M., Gancarz, A. J., Maeck, W. J. and Delmore, J. E. (1989): Fission-product retentivity in peripheral rocks at the Oklo natural fission reactors, Gabon. *Chem. Geol.*, **76**, 71-84.
- Loubet, M. and Allegre, C. J. (1977): Behavior of the rare earth elements in the Oklo natural reactor. *Geochim. Cosmochim. Acta*, **41**, 1539-1548.
- Liu, C. K., Faller, S. H., and Kuroda, P. K. (1990): Ruthenium-103, Iodine-131, Tellurium-132, and Cesium-137 in air after the Chernobyl event. *Radiochim. Acta*, **50**, 159-167.
- Ruffenach, J. C., Menes, J., Devillers, C., Lucas, M. and Hagemann, R. (1976) Etudes chimiques et isotopiques de l'uranium, du plomb et de plusieurs produits de fission dans un echantillon de minerai du reacteur naturel d'Oklo. *Earth Planet. Sci. Lett.*, **30**, 94-108.
-
- HIDAKA Hiroshi and MASUDA Akimasa (1991): Oklo as a natural analogue: isotopic study for radioactive waste disposal.
-

<受付: 1991年7月3日>

新刊紹介

「北陸地方土地地質図 (20万分の1), 同解説書」

(A4版, 997p)

編集: 北陸地方土地地質図編集委員会

発行: 国土開発技術研究センター

地質図はわが国においても、海外諸国においても無数に出版され、それぞれの目的に応じて広く利用されている。わが国では1800年代末から1950年代頃まで、地質図を主としてエネルギー・鉱物資源の探査・評価・開発のための基礎資料として作成・利用して来たが、近年においては社会資本充実のための国土開発事業にかかる地質の基本情報としての需要が高まって来ている。

地質はダム、道路、橋梁、大規模宅地開発等の事業において、それらの適切な工法、安全性確保、環境保全等を検討するために理解しておかなければならない最も基本的な情報である。また、地震、火山噴火、地すべり、斜面崩壊等の自然災害に対処するためにも不可欠な情報でもある。

本書はこのような観点から作成された20万分の1地質図と解説書である。一般的に、広範囲をカバーする地質図は特定の目的のためにのみ作成されることはないため、その地質図から得られるものは基礎的な地球科学情報である。その点本書では、土木工学分野に必要な多く

の情報を盛り込んで、それぞれの地域の地質と土木工学上の諸性質が理解できるよう配慮している。たとえば、地質凡例数を東北日本113、西南日本116にまとめ、できるだけ各々の地域の地盤地質成土史が把握できるよう努め、さらに土地地質図のほかにオーバーレイ用として、地すべり防止区域、急傾斜地崩壊危険地域および雪崩発生危険地域、ガス田、油田、公園をまとめて、2種類の図面が添付してある。また、解説書には一般的な地質やエネルギー・鉱物資源のほか、地盤および岩盤の工学的性質、土木構造物と地質との関係、災害と地質との関係など、土木建設に必要な多くの情報が豊富に記載されている。

したがって、常日頃地質を研究し、あるいは地質図作成に携っている地質技術者や研究者にとって、地質図が実際に、どのように利用され、それらの地質情報が社会基盤の維持向上をはかっていく分野にどのように貢献しているのかなどを具体的に理解できる書として、是非身近に備えておきたいものである。

購入・問い合わせ: 国土開発技術センター (Tel. 03-3503-0393; Fax, 03-3592-6699)

定価: 37,500円 (税・送料込み)

(国土開発技術センター 桑原啓三, 地質調査所地質標本館 神谷雅晴)